

米 土門



土門 剛 どもん たけし

【プロフィール】

1947年大阪市生まれ。早稲田大学大学院法学研究科中退。農業や農協問題について規制緩和と国際化の視点からの論文を多数執筆している。主な著書に、『農協が倒産する日』（東洋経済新報社）、『穀物メジャー』（共著／家の光協会）、『東京をどうする、日本をどうする』（通産省八幡和男氏と共著／講談社）、『新食糧法で日本のお米はこう変わる』（東洋経済新報社）などがある。大阪府米穀小売商業組合、「明日の米穀店を考える研究会」各委員を歴任。会員制のFAX情報誌も発行している。

大波乱の2012年産米シーズンが始まった。最大関心事、米価の動向を含めてコメ情勢を一問一答形式で占ってみた。

質問 今年産の作況はどうか。

土門 7月末時点で早くも平年作(99〜101)以下だったよ。夏場の天候回復があったとしても、作況指数ベースだと「97に近い98」かな。

質問 米穀データバンクは全国「102」、農水省統計部も「やや良」で、どちらも平年作以上の予想。コメの生産と流通を扱う農水省生産局も、この統計の数字を信じ切っている。土門 官民歩調を揃えての大コケ予

想だが、農水省全体がこれに乗っかっていてところが、漫画的。これから起こる大騒動がまるで読めていないという意味で、だ。

質問 どんな大騒動か。

土門 デフレ経済下での米価高騰だ。こんなことは、あまりなかったことで、スーパーや業務筋などは、平年作以下と読み切っていて、ちょっと不安げだ。やがて消費者も高値米価に騒ぎ始める。その怒りの声は、農水省に向けられる。11月ぐらいには政府米放出で業者が圧力をかけてくるに違いない。ところが政府米放出にはルールがある。透明性とマーケットへ影響を与えないということ

相も変わらず、

官民歩調を揃えての大コケ予想 2012年産、米価高騰の理由

だ。ところが総選挙も近づいている。消費者の意向を気にして政治家も放出で圧力をかけてくる。これだけの豊作予想をされていて、米価を冷やすための政府米放出はまずあり得ないと考えている。

質問 6月には政府米を4万t放出している。

土門 福島第一原発事故による代替供給という便法で放出してきたものだが、厳密に解釈すれば、ルール違反になる。そのときの公表資料には、代替放出はこれっきりと明言している。次に政府米放出があっても、もうこの理由は使えないし、それよりも農水省自らが平年作以上の作柄予想を出しているので、1993年の大不作にでもならない限り、政府米の放出はないと考えるのが常識的な解釈だ。

質問 その常識が通用するかな。

土門 民主党は政治主導だ。その常識が覆る可能性はなきにしもあらずだが、平年作以上の作柄予想を出していて、政府米の放出に踏み切ることは、農水省のコメ行政に大きな禍

根を残すことは間違いない。その一つに米先物市場との関連がある。ルール違反の政府米放出は、市場へ悪影響を与える。先物市場が開設されている以上、ルール違反の政府米放出は、絶対に許されないことだ。場合によっては市場参加者から訴訟リスクを負うことにもなる。先行き、不作だと思つて「買い」に走った投資家が、放出によって価格が下がり、損失を被るからだ。アメリカなら確実に訴訟されるだろうな。

質問 12年産の作況予想を整理してみたい。

土門 8月6日に公表した米穀データバンクは、7月31日時点での全国作況予想は指数ベースで「102」だったね。農水省が8月30日に公表した同15日現在の「作柄概況」では、コメ主産地の作柄概要は、北海道、東北6県、新潟などの11道県で「やや良」、栃木、長野、北陸3県、滋賀、三重の8県は「平年並み」の予想だった。傾向的には、米穀データバンクとよく似ている。

土門 大外れという点でも完全に一致しているな(笑)。米穀データバ

表1 2012年産米
作柄予想と作況指数

	農水省 統計部	米穀デー タバンク
全国	「やや良」～ 「平年並み」	102
北海道	やや良	105
青森県	やや良	105
岩手県	やや良	102
宮城県	やや良	103
秋田県	やや良	104
山形県	やや良	104
福島県	やや良	103
茨城県	やや良	103
栃木県	平年並み	103
群馬県	平年並み	103
埼玉県	平年並み	102
千葉県	やや良	101
東京都	平年並み	101
神奈川県	やや不良	102
新潟県	やや良	102
富山県	平年並み	102
石川県	平年並み	102
福井県	平年並み	102
山梨県	平年並み	101
長野県	平年並み	102
岐阜県	平年並み	102
静岡県	平年並み	103
愛知県	平年並み	102
三重県	平年並み	102
滋賀県	平年並み	102
京都府	平年並み	102
大阪府	平年並み	101
兵庫県	平年並み	102
奈良県	平年並み	101
和歌山県	平年並み	102
鳥取県	平年並み	102
島根県	やや良	102
岡山県	平年並み	101
広島県	平年並み	100
山口県	平年並み	100
徳島県	平年並み	101
香川県	平年並み	100
愛媛県	やや不良	101
高知県	平年並み	99
福岡県	平年並み	98
佐賀県	平年並み	97
長崎県	平年並み	99
熊本県	やや不良	97
大分県	やや不良	98
宮崎県	やや不良	97
鹿児島県	やや不良	98
沖縄県	平年並み	97

ンクは、気象データ、とりわけ積算温度にポイントを置いて予測している。もとより正確さは期待できない。

一方の統計部は、全国の出先組織を動員して結果が同じ大外れなのだから、こっちの方が税金の無駄遣いという事で罪深いな。

質問 なぜ、外れるのか。

土門 こっちが知りたいぐらいだよ。全国1万筆の圃場を無作為で抽出して選り出して坪刈りをしての予測だ。これだけ海戦術したのなら、もっと精度が期待できてもいいのに、結果が米穀データバンクと一緒に、結果が米穀データバンクと一緒にあるのか、統計部そのものの組織と職員の質の問題があるのか、いずれにせよ統計部の構造的な問題だ。稲をさちつと観る専門家が現場にいないのではないかな。

単に作柄予想の判断材料にするぐらいなら、その収差(ズレ)に補正をかけてみればよいが、統計部の数字は農政の極めて重要な基礎情報と

なる。後で触れるが、戸別所得補償や農業共済の補償単価の計算根拠となるのだ。それだけ正確な統計が求められるのだが、統計部には、その覚悟があっても、能力が足りないという事だ。

質問 統計部はどう受け止めている。

土門 「やや良」と公表した統計部生産流通消費統計課の内島聖壽課長に、「平年作」(99～101)以下ではないかと指摘したら、「(このポストに就いて半年で)そんな指摘は初めて聞きました」というのでは現場の声はあまり届いていないようだな。8月初旬には「あまり穫れていない」という声は、とくに日本海側の主産地で取りざたされていたが、統計部には、そんなことを言っている人もいなければ、地方の出先機関からも報告が上がっていないようだ。

質問 裸の王様みたいなものだね。

土門 そうとも言える。相場は、統計部が出してくる作況予想の通知簿

のようなものとして受け止めるべきで、その一例として、北東北3県の

概算金が昨年産より2割程度上げていることを説明してみたら、「(農協は) 思惑があるから、そんな概算金を出してきたのだろう」と、真顔で反論してきた。これには思わず、こ

っちが引いてしまったよ。すかさず「あなたのようなコメのプロなら、概算金価格を新聞報道で知っただけ

でも、「やや良」と公表した作柄予想が、実態とかけ離れていること、認識が前提ではないか」と突っ込んで、鳩が豆鉄砲を喰ったみたいにキョトンとしていた。作況予測のようなものは、たえずマーケットの動きをみながら、予測結果が正しいかどうかを検証すべきだと思うよ。もしマーケットの動きと大きくかけ離れたものだったら、謙虚な気持ちで作柄調査の方法に問題があるのかないのか検証して然るべきだ。もし問題があるとするれば、調査設計を根本的に見直すべきだと思うのだが。

質問 ところで米穀データバンクの数字はどうか。

土門 米穀データバンクが8月6日に公表した全国作況指数は、「102」。統計部の9月15日時点も、同じ「102」だった。8月15日時点では、「やや良」の発表だった。これは作況指数ベースで102～105ということだった。

質問 予想の精度はどっちが上か。

土門 結果が一緒というのはどっちもどっちだ。米穀データバンクは、積算温度など気象データが基本らしい。一方、統計部は、全国に張り巡らした出先機関の職員約1000人が、1万筆の圃場の調査に当たっている。それで、同じ結果というのは、米穀データバンクを褒めた方がよいのか、統計部の不甲斐なさを再認識すべきなのか、思い悩んでしまう。

質問 予想が外れているということでも、同じ穴の貉ではないか。

土門 五十歩百歩ということだな。米穀データバンクは、11年産の作況

土門 辛聞

予想は、「100」（平年並み）だった。それが外れだったことは、その後の米価の展開で実証済みだ。つまり実際には、コメは穫れていなかったのだ。

平年収量を高めに 見積もれば所得補償の 単価が高くなる

質問 米穀データバンクの予想が外れる原因は何か。

土門 米穀データバンクはすべての面で能力不足だ。正確さはハナから期待できない。3年ほど前のことだ、大コケ予想に顧客から大ブーイングが出て、プログラムを修正したと聞いていたが、米穀データバンクに聞くと、修正はしていないという回答だった。ということは、ずっと予測は大外れの状況が続くみたいだな。批判を気にしてか、最近では、「気象からすると、こういう状況で生育は推移している」という意味程度に利用して欲しいと釈明しているらしい。

質問 統計部には「水稻の作柄に関する委員会」というのがあるね。

土門 ある。9月4日開催の「平成24年度第1回の議事要旨」を拝見させ

てもらった。これを読むと、いかに統計部が間違った作況予測をするかが手に取るように分かる。議事要旨を読めば、米穀データバンクと同じように気象データしか参考にしていないような印象を受けた。これと坪刈りとどう連動しているか、いずれ聞いてみたい点だな。

質問 構造的な問題があるようだね。

土門 米穀データバンクも統計部も、肝心な点を見落としているのだ。生産者の構造的な分析だ。高齢化、長年の低米価による意欲低下、手抜き農法など、これらが複雑に絡み合ったものが、生産力の低下をきたしているのとみるべきだ。しかも気象変動が激しい。まず高齢農家はついていけない。大規模農家も同じだ。面積に能力が追いつかないので収量が低い。主産地の某農協の営農部長は、「最低でも半俵は収量が落ちる。管理が行き届かないのではないかな」と説明していた。まったく同感だ。

質問 由々しき事態だね。農水省はきちんと認識しているのか。

土門 認識していない。その証拠が、統計部が毎年公表する「平年収量」の数字だ。「平年収量」とは、「水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮

し、実収量のすう勢を基にして作成されたその年に予想される10a当たり収量をいう」と、農水省の公式説明だ。その数字は、05年産に527kg、06年産から07年産は529kg、08年産から12年産は530kgと漸増している。

質問 これも現場の認識とは違うな。

土門 年々、高齢化が進行していく中で、平年収量がほぼ一定というのは解せない。この点を問い質すと内島さんは、「多収稲が登場したりしているし、栽培技術も向上している」と判断して、平年収量は微増傾向だ」と説明していたが、なにも現場を知らないな。栽培技術は、年々、低下傾向にある。何よりも手抜き農法がまん延して、栽培技術は着実に低下、昨今の激しい気象変動、とくに高温障害をまともに喰らっているのが実態だ。530kgというのは、9俵近い数字になるが、実態は8俵半程度ではないかな。内島さんにぜひ目を通していただきたい資料がある。

質問 何か。

土門 新潟県農業普及情報センターのホームページにある「専技の部屋」というサイトだ。23年度の「土壌肥料」という項目に、水稻栽培用基肥一発肥料を扱った記事が3本もある。いずれも基肥一発肥料に頼り切

る農家に、警告を発した内容で、着目して欲しいのは、「水稻栽培用基肥一発肥料の肥効特性」という記事である。要点は、この種の肥料が昨今の激しい気象変動についていけないので、一発肥料を使っても、追肥が必要だよと説明している点だ。手抜きのため、一発肥料を使っているのに、なぜ追肥が必要になるのだという現場の声もあるが、それよりも30度を超える天気の中で、高齢農家が追肥をしようとしても、保健所から熱中症になるので田圃に出るなど注意している。これが日本農業の実力なのだ。これからしても平年収量が安定しているとは決して言えないのではないか。

質問

平年収量は何に使われているのか。

土門 ちょっと見過ごしてしまいうような資料だが、「戸別所得補償制度における交付金単価の算定」と「農作物共済事業における共済基準単収の算定」に使われている点でとても重要だ。平年収量を高めにしておけば、戸別所得補償の交付単価が高くなり、農業共済でも共済金が増えるという関係になり、農家にとってはプラスだが、納税者にはマイナスに働く。統計に正確さが求められるのは、納税者を守るといふ観点があることを忘れないでいただきたい。